

コモンズ

— 学びの共同体 —

Commons

派手さは無い
けど…

フィールドワーク

地道にFW

- 生駒市と本学が連携協定を締結／西の京高等学校での高大連携事業／「協働セミナーinさくらい」…P1～2
- 早稲田大学での合同ゼミに参加…P3～4
- 地域経済コモンズゼミIIの学外実習／長島リゾート なばなの里の観光体験調査…P5～6
- 奈良県下中小企業訪問調査～自動車販売・整備業を主に～…P7～8
- 奈良市地球温暖化対策地域協議会(略称NEW)と奈良県立大学生とのコラボ活動…P9～10
- 榛原地区まちづくり協議会「子どもお弁当開発プロジェクト」…P11

生駒市と本学が連携協定を締結しました

平成28年8月5日(金)、本学地域交流棟1階研修室において、生駒市と奈良県立大学との連携協定締結式がとりおこなわれました。

本学は2年前から、同市のイベントである「高山竹あかり」において、情報発信を中心に協力をしています。今後とも同市との連携した取り組みを通じて、地域住民の方々と共に、地域の課題を解決する人材の育成につとめてまいりたいと考えています。



小紫雅史生駒市長(右)と伊藤忠通学長(左)



西の京高等学校での高大連携事業

奈良県立大学は地域貢献の一つとして、数年前から高大連携事業にも力を入れ始め、県内の複数の高等学校と協定を結んでいます。

平成28年11月11日(金)、その連携先の一つである奈良県立西の京高等学校(奈良市六条西3



丁目)における本学の取り組みとして、高津融男准教授と高津ゼミ生7名が西の京高校を訪問。同校1年1組の地域創生コースの生徒さん40名に対して、出前講義とワークショップの2部構成の授業をおこないました。

まず、第一部では高津准教授が「公共政策のデザインの考え方と方法」をテーマに講義をされました。この講義では、さまざまな地域課題をみんなで考えてみた時に、その課題に対して、自分たちがどのように分析をおこない、どのような解決策を見出していけば良いのか？そのメソッドを身近な事例をあげて、わかりやすく解説をされました。



高津融男准教授の出前講義

休憩を挟んで、第二部のワークショップでは、前の高津准教授の講義を踏まえて、「奈良の観光を元気にするには」という地域課題のテーマについて考えました。ここでは、生徒さんを7つのグループに分けて、それぞれのグループには高津ゼミ生が



ワークショップのようす

1名ずつ入り、学生が各グループの生徒さんの意見を集約するかたちで進行役をつとめました。

西の京高校の生徒さんは、普段から地域に関して学習されているということもあってか、与えられたテーマについて真剣に考え、さまざまな視点から積極的に意見を出されていました。そのような雰囲気だったので高津ゼミ生のほうも自然にグループに溶け込み、一緒になって地域課題を

考えることができたのではないかと思います。高津ゼミ生からも「良い経験になった」「楽しかった」という言葉も聞かれました。

本学は、これからもこうした高大連携事業を通じて、地域での教育活動、人材育成に力を注いでまいりたいと考えております。

「協働セミナー in さくらい」

奈良県立大学地域サテライトに隣接する桜井市市民活動交流拠点（エルト桜井 2 階桜井まほろばセンター）を会場に、桜井市が主催するセミナー「協働セミナー in さくらい」が開催されました。

このセミナーは、平成 28 年 11 月 9 日(水)と 26 日(土)の 2 回にわたっておこなわれ、本学のコミュニティデザインコモンズの教員と学生たちが参加協力をしました。

9 日(水)のセミナーは講義形式でおこなわれ、佐藤由美准教授が「少子高齢化に対応した自律的コミュニティの形成に向けて」をテーマに講演をされました。また、26 日(土)は、梅田直美講師がグループワーク形式のセミナーをおこない、地域の方々とコミュニティデザインコモンズの学生が、ともに地域の課題について議論しました。

協働セミナーに参加された地域の方々は、皆「地域を思う」熱心な方々ばかりでした。さまざまな地域課題に対する姿勢や考え方など、本学としても勉強させていただくことが多くありました。とりわけ、本学の学生にとっては、このように地域の方々と接して、意見交換をする場を一つ一つ積み重ねていくことが、これから社会に出ていくうえで、とても貴重な経験に繋がってくるのではないかと思います。



佐藤由美准教授 (11 月 9 日のセミナー)



梅田直美講師 (11 月 26 日のセミナー)

早稲田大学での合同ゼミに参加

■ メディアがつくる美や女らしさへの気づき

平成 28 年 12 月 17 日、本学都市文化コモンズの 3 年生 7 名が、早稲田大学で開催された「メディア系ゼミ合同発表会」(合同ゼミ)に参加し、研究発表を行ってきました。合同ゼミには、開催校の早稲田大学、法政大学、日本大学、本学からメディアを研究する 5 つのゼミ(合計約 80 名)が参加し、二つの会場に分かれて合計 10 グループが研究発表を行いました。



前学期に読み込んだ文献の一部

合同ゼミに参加したのは、都市文化コモンズのなかのメディアと文化の関係をテーマにした演習です。この演習では、イギリスの社会学者、ポール・ホドキンソン『メディア文化研究への招待』(ミネルヴァ書房)など、メディア研究の最新の研究を前学期にじっくり読み込み、学生同士のディスカッションを重視してきました。

そういった議論のなかから出てきたのが「メディアは美しさや女らしさの基準をつくりだしているのか」という学生たちの問いでした。そこからさらに問いに関連する先行研究の読解や資料映像の批評を進め、この大きな問いのもとで、女性の身体加工という女性たちの実践をテーマにした班(身体班)と、女性雑誌と女性の生き方や女らしさの関心に注目した班の(雑誌班)二つのグループに分けて、研究を進めていきました。そこでは教員がテーマや研究対象を与えるのではなく、学生たちが自らが問いを立て、それを社会的な背景と接続することを重視し、教員はときに助言をしたり、違う論点や見方を提示したりしながら粘り強く研究の進展を見守ってきました。

■ “他流試合”を経て論点が明確に

当日の発表では二つの班が「自己充足のために女性が求める美—タトゥ・美容整形・下着に見る身体加工」(身体班)、「女性誌に見る現代の女性の生き方—結婚・恋愛・仕事の側面から考える」(雑誌班)をテーマにそれぞれ発表を行い、他大学の学生、教員との間で活発な議論が行われました。

身体班は、班員が分担してタトゥ(刺青)、美容整形、下着における身体加工を分析対象とし、その歴史や先行研究を整理したうえで、雑誌、テレビのバラエティ番組などのメディアでの取り上げられ方を分析しました。その結果、タトゥや美容整形への執着、下着へのこだわりという、一見するとそれぞれ別の趣向に思える行為に共通する特徴や、それらに対するメディアの影響を指摘しました。メディア研究のテーマとしては新奇性のあるものだったためか、他大学の学生の関心が高く、事例に対する補足説明を求める質問が多数あげられました。

雑誌班は、前学期に読んだ文献にもう一度立ち返り、女性雑誌のメディアとしての位置づけを確認した上で、日本の女性雑誌と日本の女性のあり方の関係を丹念に検証しました。



「自己充足のために女性が求める美」と題した発表の様子



「女性誌に見る現代の女性の生き方」と題した発表の様子

それらを踏まえて現代の女性雑誌を分析した結果、「仕事」と「生活」の両面でより良い女性になることや、結婚に向けて恋愛に向上心を持つことなどが女性の理想像として提示されていることなどを明らかにしました。この発表に対しても、分析対象の雑誌選択の基準についての質問や、先行研究の整理とメディア分析との接続の弱さの指摘など、今後の研究につながる重要なコメントが寄せられました。

本学の学生たちは、自分たちの発表に対する質疑応答や、他大学の発表に多くの刺激を受けて、合同ゼミ終了後、一人ひとりが「ゼミの研究に対する意欲がさらに高まった」、「メディアの理論や分析方法をもっと学びたい」といった感想を熱っぽく語っていました。それに対して、引率した筆者も「問題設定や分析方法が異なるゼミ同士の“他流試合”の緊張感のなかで自分たちがやってきたことを試すのが大事。自分たちが問いを立て、それを検証するためのアプローチを選んで真剣に取り組んできたからこそ、他大学の研究にも真摯に耳を傾け、それを自分たちの研究にも取り入れることができる。

それが他大学との学術的な交流の大きな意義ではないか」と答えました。

発表者の一人、川元絢貴さんは次のように感想をまとめています。

合同ゼミの計画を聞いたときは、本当に早稲田大学で発表ができるのかと不安でいっぱいでした。準備の段階でもすごく不安でしたが、それぞれの班員が真剣に取り組む、分析していくことで、着実に研究が深くなっていきました。研究というものは、最初は手探りの状態が続いても、少しずつ形になっていくものだ実感しました。また、その過程を経て、最初から「こんなのできない」と決めつけるのはすごくもったいないことなのだと学びましたし、メディアの研究とはどのようなものかが、少しずつ理解できてきた気がします。他の大学の研究も多種多様で聞いていて興味深いものでした。今回の合同ゼミの経験を活かし、自分に足りない課題を克服して納得のいく卒業論文を書きたいと決意しています。また、今回学んだ「チャレンジすることの大切さ」は今後の人生においても大切にしていきたいです。



活発な議論が行われた会場の様子

本学の学習コモンズ制は「学びの共同体」を掲げています。研究の課題や目標を教員があらかじめ決めるのではなく、学生とともに議論し、学生の問いに寄り添いながら演習を進めていき、結果として他大学との合同ゼミを成功させたことは、学生たちにとっても、また教員にとっても大きな意味のあるものだったと言えます。

(都市文化コモンズ 准教授 岡井 崇之)

地域経済コモンズゼミⅡの学外実習

■ 県立美術館と川西町、三宅町、田原本町

2016年11月17日に奈良県立美術館で企画展『雪舟・世阿弥・珠光…中世の美と伝統の広がり』を鑑賞しました。学生からは、「中林竹洞筆の「子母竜図」は飛び出してくるような躍動感があり、強く印象に残った。ボランティアガイドの方の説明がなかったら、1つ1つの表現に目が向かなかったかもしれない。また、世阿弥直筆の能本を見た時はワクワクした」との感想もありました。そして、連携展示に参加していた、田原本町、川西町、三宅町の歴史や特産品を知るきっかけになり、3町共同の編集になる「磯城の里ウォークパンフレット」をテキストとしてコモンズゼミⅡ(小松原区分担当)の時間を利用し、3回に分けてフィールドツアーを実施しました。12月8日の川西町では、面塚をはじめ様々な歴史遺産を目の当たりにしました。そして同時に町内の2つの工業団地とインフラ整備の状況、役場から結崎駅に至る通り沿いの小学校や住宅団地など、現在の町の人々の暮らしを見られ、地域経済の学習にも役立ちました。さらに12月22日にはグループワークの訓練を兼ね、メンバー同士連携して、三宅町をくまなく巡りました。そして、2017年1月12日に田原本町を訪問しました。グループ単位で唐古・鍵遺跡とミュージアムを軸に自由に回るとともに、「人生の先達に学ぶ職業・しごと研究」の一環として、役場の職員5名の皆様から人生観・職業観に関する聞き取り調査を行いました。公務員志望が少なくない現状にあって、現場に携わる方々からの生の声を聞くことができました。尚、この間には、1月5日のゼミでは「田原本ふるさとかるた」を使って新春かるた大会を行いました。既に読み札と絵札との対応を憶えた学生もありました。次週の田原本町での活動の準備にもなったと思います。



新春かるた大会



田原本町役場での聞き取り

■ バスツアーの研究

コモンズゼミⅡ(小松原区分担当)では後学期、継続的に標記テーマに基づく共同研究に取り組んでいます。15名の受講学生が5グループに分かれ、それぞれのグループごとにバスやツアーに関する問題を掘り下げています。例えば、バスツアーそのものを研究対象にしたものを次に一つを紹介しておきます。

(地域経済コモンズ 教授 小松原 尚)

長島リゾート なばなの里の観光体験調査

■ ツアー参加者の客層

私たちは2016年12月26日にナガシマスパーランド、ジャズドリーム長島、なばなの里を巡るバスツアーに参加しました。バスツアーの参加の客層としては、家族連れが2組、カップルが7組、友達同士が1組参加していました。予想としてはクリスマス後なのでカップルが少なく、冬休み期間なので学生が多いのでは、と思っていましたが実際はほとんどがカップルで参加をしていたことに驚きました。同ツアーでも中で細かく分けられているようで、牡蠣食べ放題プランや温あみチケットつき、金券付き、ナガシマスパーランド乗り物乗り放題券付プランがありました。その内、私たちは乗り物乗り放題券付プランでした。

■ ナガシマリゾート内ジャズドリーム長島

まず初めにジャズドリーム長島という名前のアウトレットパークへ向かいました。名前の通り全体的にジャズがモチーフになっていました。また、全体的にジャズが流れていました。木曾三川の河口という立地に着目し、ミシシッピ川下流域の港町ジャズの発祥地とされるニューオリンズの街なみをイメージしているそうです。11:30頃施設内で昼食をとりました。少し早い時間だからか客はまばらであり、客層は主に小さい子供連れの親子でした。



アウトレットパーク



昼食の様子

■ ナガシマリゾート内の客層の比較

昼食を取ったあとアウトレットパーク内を散策しましたが、ナガシマスパーランド、なばなの里との客層を比較したところ、ナガシマスパーランドの主な客層はカップル、冬休み中の学生が殆どでした。小さい子供向けの乗り物が少ないためか親子連れはあまり見られませんでした。そして、なばなの里も同様カップルが一番多く他の施設ではあまり見られず、外国人の方もちらほら見られたくらいでした。それに対しアウトレットパーク内ではカップルは殆どおらず、親子連れや学生ではない友達同士が多かったです。一人の人も多かったので、他の施設には寄らず純粋に買い物を楽しむために来ている人が多いようでした。

アウトレットパークを一巡した後には長島スパーランドで十分に楽しみ、そしてなばなの里のイルミネーションで癒されました。今回私たちが参加したバスツアーは一日でナガシマリゾートを十分に満喫できるととても良いツアーであると思いました。(地域経済コモンズ 3年生 新川 琴理)

奈良県下中小企業訪問調査

～自動車販売・整備業を主に～

■ 地域の企業を知る

2016年9月2日に地域経済コモンズの二年生と一年生が小松原・山部の二人の教員とともに、企業訪問および調査を実施しました。今回の訪問調査は中小企業団体中央会主催で、奈良県の企業の魅力発信活動の一環として行われています。実際に奈良県下の自動車販売・整備業を見学し、お話を聞くことができました。はじめに訪問したのが奈良県天理市にオフィスをかまえる株式会社ファーストグループです。ここでは自動車整備業界の現状と、実際に整備・修理工場の見学および聞き取りを行いました。自動車整備をメインの事業にすえており、車の販売、さらには直営のカフェレストランも経営されています。奈良市押熊に出店の際は、カフェ風のおしゃれな外観にし、子供向けのスペースを設けた設計の話がされていました。それは



整備業務を知る

この地域周辺が住宅地として開発された場所で、若いファミリー層に訴求する重要性があるからです。ファーストグループさんによれば地域によって客層が異なるのでそれにあわせて店づくりを変



窓口・販売業務の説明を受ける

えているとの事でした。これは地域によって顧客に訴求方法を変えるエリアマーケティングの実践といえるでしょう。その他、地域とのかかわり方を踏まえた活動がみられました。例えば、本社オフィスは天理の商店街の中に立地しています。大阪市内等の他の選択肢がある中、あえてこの地に中心となる事業所を置いたのは、この場所は大学生の人通りが多く、商店街の活性化を目的としているからと説明されていました。

■ 企業の理念を知る

つぎに訪れたのは奈良トヨタ自動車株式会社です。ここでは奈良トヨタのサービス精神や理念を中心にお話を聞きました。中でも整備士としての技術とモノづくりの誇りを持ってもらうプロジェクトとして初代クラウンのレストアの様子を収めた動画を閲覧しました。このプロジェクトの最後は完成したクラウンで奈良からトヨタの本社がある名古屋まで走行していき、顧客に長く愛される車づくりとサービスを体現したものになっています。

歴史的なプロジェクトがある一方、トヨタの最新技術の結集である水素自動車「MIRAI」に同乗す

る機会もありました。MIRAI は奈良県下に 2 台しかない貴重なもので、学生も「静か」「スムーズな加速」といった感想を漏らしていました。企業訪問時点では、奈良県内でまだ購入された方はいなかったそうですが、将来水素ステーションが整備され普及し始めたら、水素自動車という選択肢が当たり前の時代になるかもしれません。



水素自動車の説明を受ける

■ 課題を知る

最後に訪問したのが奈良トヨペットです。奈良トヨペットはトヨタの他の販売店と比べ顧客層は 50 代が中心であり、トヨタの商品構成の中でも価格が高めの商品を取り扱っている販売店です。奈良トヨペットの今後の方針は 30 代といった若い方をターゲットにマーケティング活動を行っていききたいとのことでした。それは今後市場が先細りする中で、新しい市場を開拓する必要性からです。そのような自動車市場を取り巻く環境の中、奈良トヨペットの社員さんが話されていたのは、「若者のクルマ離れと言われているけれども、そもそも若者のクルマ離れとは何か、じっくり勉強をする機会がないので知りたい」とおっしゃっていたことです。こういった何気ない話の中でも、常識をあらためて捉えなおして考えるネタが転がっています。活動を通じ実社会に触れる中、テーマを見つけ出し、実りある学習および調査研究を行ってほしいというのが教員の気持ちです。



報告に向けた準備の様子

■ 成果報告とコモンズにおける学習

地域経済コモンズは地域を生活の場であり、生産、雇用、消費、流通、といった経済活動の場であると捉えています。今回の企業訪問及び調査は実際に地域で経済活動を行っている方々からのお話を聞き、事業活動を知る良い機会になったと思います。

今回の活動は会社を訪ねて話を聞くだけではなく、学生が自身の興味や必要に応じて収集したデータをまとめ、奈良県中小企業団体中央会に報告していきます。学生は自動車整備のきつい・汚いという否定的なイメージを覆し、男女ともに取り組める魅力のある仕事であると捉え、報告会で見事、最優秀賞に輝きました。このような活動を通じ、自身で考え、行動する自主性を地域経済コモンズでは実践的に養っていききたいと思います。

(地域経済コモンズ 講師 山部 洋幸)

奈良市地球温暖化対策地域協議会(略称 NEW)と 奈良県立大生とのコラボ活動

奈良市地球温暖化対策地域協議会(ならエコ・エコの和、略称「NEW」)には、平成 29 年 2 月時点で県大生 9 名(学生代表は 3 年生の出口栄美さん)が中に入って、協議会の方々と共にさまざまな取り組みをさせていただいております。参加学生は、異なる回生やコモンズであっても協力し合って地道に活動の幅を広げていっています。ここでは従事学生の皆さんに主な活動内容を感想も交えて紹介していただきました。

■ 奈良市で開催されるイベントへの参加

私たちは NEW とのコラボ活動の一つとして、地域のイベントに参加しています。これまで、はぐくみセンターで行われる「はぐはぐ祭り」、なら 100 年会館で行われる「にぎわい市場」や春に奈良公園で行われる「アースデイ」に参加しました。このお祭りでは、クイズなどを通して、来てくださった方々にエコについて考えてもらったり、理解してもらったりします。特に「アースデイ」では、他のお店も多数出店されていることから、幅広い年齢層の方が私たちのブースに来てくださいます。また、奈良公園という土地柄、外国人の方も来てくださいます。ブースに来てくださった方に、省エネな家と省エネではない家を見比べてもらい、自分の家でもできるエコについて考えてもらいます。



にぎわい市場(なら 100 年会館)

昨年は、そのクイズを新しく、私たちが作成しました。みんなでエコな情報や、地球温暖化のことについて調べ、それをどういう風なクイズにしていくなか考えました。これらのお祭りは小さい子が多いので、子供たちでもわかるような内容にし、クイズの作成も○× クイズと塗り絵形式のクイズにしました。塗り絵のクイズは普段から親しみのあるものなので子供たちも興味を持ってくれました。また、子供だけではなく大人も楽しめるように様々な難易度のクイズを作成しました。これらのイベントを通して、エコや地球温暖化についての知識を増やすことができただけでなく、子供たちが楽しめるには、理解できるにはどうしたらいいのかを考え、子供たちと接するという経験もたくさん得ることができました。

(奈良県立大学 2 年生 上田 栞里、 鹿子嶋朋佳)

■ 『茶話～タイムズ』の発行

私たちは、NEW の活動の一つとして、奈良市民を対象に『茶話～タイムズ』を制作しています。『茶話～タイムズ』が誕生した背景には、市民の方に地球温暖化やエコのことを難しく書いても、読んでもらえないということがありました。そして、改善策として市民の方に気軽に読んでもらえるような情報誌を作ろうと考えたことが始まりです。

情報誌の作成に当たって、私たちは年に 2 回ほど奈良市内にある暮らしに役立つ企業やお店に行き取材を行っています。取材先のジャンルは、「おもてなしは心地よく(観光)」「いにしへの香り(土地柄)」「知って住まい(住)」「奈良暮らしお得情報(生活)」「納得の食材と味わい(食)」「体が喜ぶそれ何?(健康)」「心に響く品々(衣・身の回り)」「イベントあっと奈良(催し物)」の 8 つに分けて行っています。

私たちはこの 8 つのジャンルから興味を持った企業やお店を自分たちで取材を行います。一つのお店への取材は 3 人程度で行います。1 人は記事を書くための担当者、あとの 2 人は取材時のメモをとる副担当者です。担当者は事前にお店について調べ、聞いてみたいことをまとめておいて取材に臨みます。

取材には NEW 関係者の方と一緒にお店に伺います。取材時間はお店にもよりますが、だいたい 1 時間から 2 時間です。



『茶話～タイムズ』

その時にお店のこだわり、お店の特徴、お客様へのメッセージなどをお伺いします。逆にお店の方から学生に意見を求められたりすることもあり、やりがいも感じました。

この取材で一番大変なことは、取材内容をいかにまとめるかということです。記事はだいたい A4 1 枚にまとめます。よく取材をしていればいるほど文章をまとめることは難しく、書き終えた後は、NEW の関係者の方に内容を見てもらいます。休日には学生メンバーで集まり記事の内容を共有することもあります。『茶話～タイムズ』の完成までに多くの人の支えがあり、多くの苦勞もしています。その分、完成したときの喜びはとても大きいです。（奈良県立大学 2 年生 秋山 彩）

■ 第 4 回「匠の環」でプレゼンテーション

平成 28 年 12 月 21 日(水)、私は、奈良県文化会館小ホールにおいて開催された、環境に対する取り組みを行う県内団体の集い「匠の環」において、NEW と県大生とのコラボ活動の紹介発表をさせて頂きました。

発表用原稿と PowerPoint は、NEW 幹部の方と私たち学生とで何度も集まって推敲を重ね、発表練習も行いました。この発表を通し、私たちの活動を参加者の方々に伝えることができ、また、何よりも大勢の前でお話をさせて頂くという貴重な経験を得ることができました。

当日は、他団体の活動発表からも、地球環境問題対策に対する考えの深さや、意識の高さを感じました。「匠の環」に参加されている方々は、地球環境問題に日常から向き合っており、どのようなことが自分たちにはできるのかを常に考えていることが分かり、私たちもより一層、環境問題に対する意識の持ち方について再考していかなければいけないと思いました。

発表終了後、地球環境保全団体の方々との意見交換会が行われました。他の団体では、学生との活動といった、若い年代層との交流の機会が少ないため、本学が単位取得制度も兼ね備えて地域活動をしていることについて教えてほしいという意見が多く寄せられました。学生とのコラボ活動、そして広報誌『茶話～タイムズ』の発行部数の増加に至るまでには、様々な努力と根気が必要であるということも、この意見交換会を通して学びました。（奈良県立大学 2 年生 三浦 徳紗）



「匠の環」でのプレゼンの様子



■ Twitter でエコ情報を紹介

NEW と私たちは Twitter で、環境に関する役立つ情報や環境省が推進している「クールチョイス」など省エネ生活を実現するための様々な取り組みを紹介する活動を新しく始めました。

これまで、家電の設定を変えるだけでできる簡単エコや LED ランプの普及、カーテンによる冷暖房効果の向上、ウォームビスなどの紹介やリサイクルの推進、地球温暖化のメカニズムの説明などをつぶやいています。インターネットが普及し、Twitter 等の SNS を利用する人が増えてきているので、今後もこのようにインターネットを活用した活動を進めたいと思います。

こうした取り組みのために、学生たちで自主的に勉強会を開き、地球温暖化についてテーマを設け、調べ学習をおこなっています。そこで調べた知識を他のメンバーに教えることで、学生の知識を少しずつ増やしていています。

この勉強会とは別に、NEW の幹部の方々と学生メンバーでも、定期的に勉強会を行っています。省エネ活動に長年携わってこれ、知識や経験の豊富な NEW 幹部の方々からは、学ぶことがたくさんあります。学生メンバーは、省エネ生活に関する知識を得るだけでなく、得た知識をどのように市民の皆様に広めるかということまで考えます。

私自身も NEW の活動に参加するようになってから、日常生活でも省エネについて意識するようになり、NEW のイベント以外の場でも省エネ生活を周囲に推奨するようになりました。（奈良県立大学 2 年生 滝沢 啓介）

榛原地区まちづくり協議会 「子どもお弁当開発プロジェクト」

宇陀市では、地域を取り巻く課題の解決のために、地域住民が連携・協力して取り組む、横のつながりを持った組織として、各地区に「まちづくり協議会」を立てています。その一つ、「榛原地区まちづくり協議会」では「子どもお弁当開発プロジェクト」と題して、地域の子どもたちが、地元の豊富な食材を生かしたオリジナルのお弁当を開発するプロジェクトを実施しています。そして、このプロジェクトにおいて、昨年度、今年度と5名ずつ、フィールドワークで県大生が中に入ってお手伝いをしています。



「食」に関してクイズ形式で楽しく学ぶ

このプロジェクトの目的は、ただ単に子供たちにお弁当の作り方を教えることではありません。この取組みを通して、地域の子どもたちには、宇陀市の素晴らしさや地域の「食」について学び、協調性・プレゼンテーション能力を育むといったことが期待されています。なので、お弁当を作る過程には、食材を地元の農園で収穫したり、みんなで意見を出し合ってお弁当のメニューを考えたり、自分の意見をみんなの前で発表する機会が盛り込まれています。あくまでも、お弁当を作る主体は地域の子どもたちなので、一緒



お弁当づくり本番のようす



完成したお弁当！！

に活動をする学生に求められることは、そうした子どもたちの可能性を引き出すことにあります。

「子どもお弁当開発プロジェクト」は来年度も実施予定です。地域交流室の掲示板やフェイスブックで募集のお知らせを公開しますので、興味のある学生さんは、是非、ご参加ください。また、主催団体は異なりますが、来年度からは、同じ宇陀市で「宇陀ランチプロジェクト」が新しく始まります。

地元で採れる豊富な農産物を、学校給食という現場で、地域の子どもたちに少しでも多く味わってもらいたい。そのために地域の学校給食における地場野菜の普及率を高めていこうというのが「宇陀ランチプロジェクト」の目的です。両プロジェクトとも、特に料理が得意な学生さんが対象というわけではないです。男女を問わず募集をします(募集定員あり)。

Facebookを
フォローして
情報をゲット！

地域交流室

Facebook



国際交流室

Facebook



キャリア・

サポート室

Facebook



 奈良県立大学

〒630-8258 奈良市船橋町10番地

TEL 0742-22-4978 / FAX 0742-22-4991

お問い合わせは 月曜日～金曜日の午前9時から午後5時まで
<http://www.narapu.ac.jp/>

奈良県立大学大学情報誌 Vol.10 (2017年2月28日発行／発行：奈良県立大学地域交流センター地域交流室 TEL0742-93-7022)